

きょうさいだより

Sasebo Kyosai Hospital Communication Paper



「かわいい冬鳥」ルリビタキ

これは、弓張岳の砲台跡で撮りました。目の前にピョンピョンと出てきます。
♂の成鳥はこのような大変きれいでかわいいです。

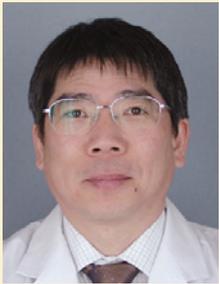
撮影：山川勇造医師

INDEX

- ごあいさつ 副院長 井原 司 ①
- 市民公開講座 開催報告 ⑤
- 長崎救急医学会 開催報告
- 医療を支える人々 ～放射線検査科～
- 眼科診療体制の案内 ②
- 地域医療連携室より ⑥
- 認定看護師紹介：感染管理
- 年末年始の管理当直体制
- 診療活動の現況 — 健診センター — ③④
- 編集後記
- 外来診療担当表 ⑦

ごあいさつ

副院長 井原 司



佐世保共済病院のホームページや案内誌を開き病院概要を見ると、多くの病院特色が載せてあります。『地域医療支援病院』『救急告示病院』『臨床研修指定病院』『各科の修練施設』などなど、約40項目の指定や専門認定、指導教育施設が書かれています。これらの指定項目や認定施設は、国や自治体、関連学会より指定、認定されますが、これを取得し維持していくには施設のハード面、ソフト面の多くの申請要件を満たさなければなりません。病院設備や職員の充実、医療実績、施設運営方法、そして専門医療スタッフの存在が不可欠です。

医療専門職の認定は一般にその領域や部門で定められた臨床経験と研修や実習の受講、認定試験合格で認定が得られます。認定取得後も維持のため研修や臨床経験が必要で、認定資格の維持にはかなりの努力がいります。このようなスタッフの指導のもと、指定病院、専門施設が運営されるのです。

今後、地域の人口減少、医療スタッフ不足、高齢者の増加など医療を取り巻く環境は大きく変化し厳しさも増してきます。当院としては、現在の専門施設に加え、高齢者疾患、救急災害医療、在宅医療などに対処できる医師、スタッフの充実、マネージメントやチーム医療のできる医療スタッフの育成を行います。

時代の変化、医療の流れに沿って急性期病院としての体制を維持し、『地域ニーズに合ったより良い医療を提供できる病院』を目指して努力していきます。

皆様のご指導、ご支援よろしくお願いたします。

長崎救急医学会 開催報告

院長 井口 東郎

第24回長崎救急医学会を9/10(土)に佐世保共済病院の担当で開催致しました。

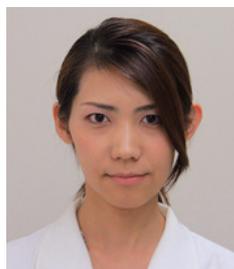
本学会は長崎県で救急医療に関わる多職種の方々が一堂に会して意見を交換し、長崎県における救急医療の発展に繋げるのを趣旨としています。今回は迫り来る超高齢化社会における救急医療の在り方にスポットを充てた特別講演、受入困難事例対策の提言を目指したパネルディスカッション(事例検討)及び一般演題から構成し、これに災害医療の観点から熊本地震を取り上げた特別企画とランチ



ンセミナー(周産期救急)を加えた少々欲張った企画と致しました。佐世保での開催で参加者数が案じられましたが、蓋を開けるとそういった心配は徒労に終わり、一般演題には46題もの多数の応募をいただきました。参加者も200名を超え、「大変、勉強になった」、「面白かった」、等々の高い評価をいただきました。企画者として嬉しく思うとともに、本学会の準備ならびに運営に関わっていただいた病院スタッフに感謝申し上げます。

眼科外来は、現在、医師2名、視能訓練士1名、看護師3名のスタッフで診療にあたっています。平成26年10月より2年間は医師1名で眼科診療を行っていましたが、今年の10月から福岡大学から大久保先生が赴任され、ようやく以前の医師2人体制に戻ることが出来ました。診療の内容は、医師1人体制の時とあまり変わっていませんが、月曜日から金曜日までの午前是一般外来で、火曜日、水曜日、金曜日の午後は特殊検査やレーザー治療、注射治療、小手術を行っています。また、月曜日と木曜日の午後は白内障を中心とした手術室での手術を行っています。手術治療は主に入院で行い、白内障手術、硝子体手術、緑内障手術等を行っています。

大久保 美佳先生のご紹介



- 出身大学/福岡大学
- 卒業年度/平成21年
- 在籍医局/福岡大学眼科
- 専門領域/眼科一般
- 出身地/福岡
- 趣味、その他の一言

2年ぶりに佐世保に戻ってきました。よろしくお願ひ致します。

認定看護師活動の紹介：感染管理

感染管理認定看護師 碓 由美香

感染管理認定看護師は2001年に18名が誕生し、2016年11月現在の登録数は2564名と、21ある認定分野でも最も多い数になりました。近年、薬剤耐性菌保菌者の増加に伴い、感染対策の重要性が認知されてきたことありますが、やはり2012年の診療報酬改定で感染防止対策加算が算定できるようになったことが大きな要因でしょう。



当院では2012年に「感染管理室」が設置され、感染対策を担当する医師・薬剤師・臨床検査技師・看護師が配置され、感染管理認定看護師は専従として活動しています。医療関連感染の発生の監視として各種サーベイランスや抗菌薬使用状況の確認、感染防止対策の実施状況確認や介入の

ためのラウンド、感染対策指導や研修の企画、感染症発生動向の情報提供、マニュアルの作成などを感染対策チーム



(ICT: Infection Control Team) や ICT リンクナースと共に行っています。感染症から守るのは患者さんだけではなく、職員やその家族もであり、職員は委託業者の方から病院管理者まで幅広く対応しなければいけないのも感染管理ならではのといえます。

感染症を引き起こす菌やウイルスが肉眼で見たなら、私たちが口を酸っぱくして「手指衛生」とか「環境清掃」って言わなくてもいいのかしらと妄想しつつ、繰り返し基本的な感染対策指導を行うことの大切さを実感しています。

して各種サーベイランスや抗菌薬使用状況の確認、感染防止対策の実施状況確認や介入の



健診センター
医長 原 敬一

【はじめに】

健診センターでは健康診断業務全般を担当し、各診療科と異なり予防医学を行っています。

予防医学は病気になりにくい心身を作り、病気を予防し、健康を維持する事を行う医学

で、疾病予防や健康の啓発、健康増進、予防接種などの1次予防、疾病の早期発見・早期措置、適切な医療と合併症対策の2次予防、疾病の再発防止の3次予防に分類されており、健康診断は2次予防に当たります。

健康の尺度の一つとしてこれまでは、平均寿命がよく用いられています。日本人の人口構成が少子高齢化により後期高齢者が急速に増加する事が見込まれ、もう一つの尺度として健康寿命が近年注目されてきています。健康寿命とは、日常的・継続的な医療・介護に依存せず自分の心身で生命維持ができ、自立した生活ができる生存期間の事です。平成22年の平均寿命は男性が79.55歳、女性が86.30歳に対し、健康寿命は男性が70.42歳、女性が73.62歳であり、平均寿命と健康寿命の差は、男性が9.13歳、女性が12.68歳です。この差を短縮する事で寿命の質を上げるとともに、医療費や介護費用などの社会保障負担の軽減につながる事が期待できます。こうした平均寿命や健康寿命の引き上げを担うのが、健診センターの業務になります。

【人間ドックの歴史】

日本の近代医学史での予防医学の流れの始まりは、細菌に対するワクチンを開発した北里柴三郎や脚気に対する比較試験と食事療法を生み出した高木兼弘や塩素ガスを混入させ水道水を滅菌させた後藤新平の仕事などになります。その次の流れが人間ドックです。

昭和12年当時の大物代議士2人が、東京大学坂口内科に検査入院しました。大物代議士の入院

で思わぬ憶測が政界に広がりかねないと、先手を打って記者会見を開きました。「病気で入院するのではない。ちょうど艦船が母港に帰ってドライ・ドックに揚がり、船底についた貝殻を除いたりエンジンや計器類を点検・整備する様なもの。」といった主旨の説明がなされたところ、なるほどと言う事で当時政治家や実業家が次々と検査入院しました。これが、「人間ドック」の由来です。

その後戦争でこうした検査入院は中断していましたが、戦後政財界から再開の要望があり東京大学を退官した坂口教授の赴任先の東京第一病院（現・国立国際医療研究センター病院）で昭和29年7月12日に人間ドックが始まりました。その日が人間ドックの記念日となっています。

【当院の人間ドック】

当健診センターは平成11年の開設で当初内科外来受診者と混在する形で診療を行っていましたが、平成20年4月より現行の内科外来診察から分離した形での診療を行っています。

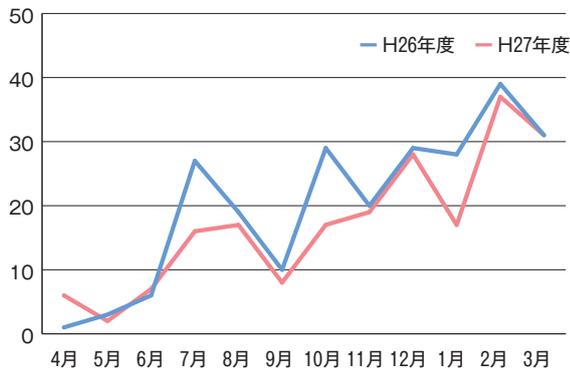
健康診断では、診察および各種検査で健康状態を評価することで健康の維持・増進、疾病の予防や早期発見に役立てる事を目的としています。日帰りドックや2日ドックでは健康診断で行っている検査項目に腹部超音波検査などを加え、さらに詳しく全身状態の把握を行えるようにしています。

当健診センターでは、全て予約制で日帰りドックは月曜日から金曜日までの全日で、2日ドックは火・水曜日と木・金曜日に実施し、1クール6名の受診枠を設けています。

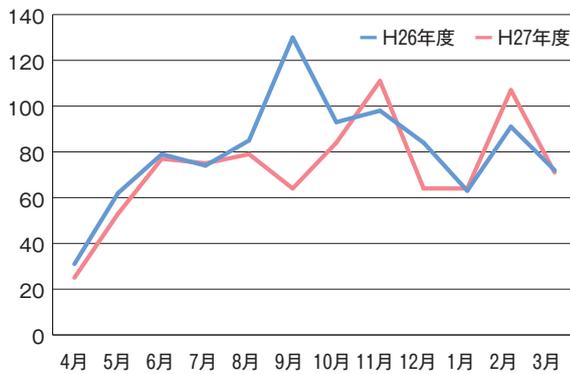
健診センターでの診療は治療を行うものではなく精密検査や治療が必要な場合、その内容に対応する医療機関への紹介を行っています。

日帰りドックと2日ドックの平成26年度と平成27年度を受診者数のグラフを見ると、年度単位の契約のため年度初めは受診者が少ない傾向にあるものの日帰りドックはゴールデンウィーク明け頃よりほぼ定常の受診者数になっていますが、2日ドックでは年度末に

■ 月別 2 日ドック受診者数 (件数)



■ 月別日帰りドック受診者数 (件数)



向けて漸増の形になっています。年度前半に比較的受診枠の余裕があり、今後受診を希望される方はその時期の予約のほうが都合のいい受診日を選びやすくお勧めです。

具体的な検査項目や受診申込、問合せについては当院のホームページ上の「健診センターのご案内」に掲載していますので参照して下さい。

受診に当たっては通院中の方の場合、「お薬手帳」

の持参や事前に主治医に受診日を伝える事をお勧めしています。服薬中の薬が検査の際に一時中止すべきか否かといった確認が必要な場合があるためです。

また、当院で継続的に受診されている場合は経時的な検査結果の比較ができ、以前の健康状態と比べ現在どうであるのかが分かりやすくなります。一方、当院初診で検査結果に異常が見つかった場合、長期に渡ってのものか最近の変化なのかが問診だけでは判断ができないこともありえるため、他院での健診結果の持参をお勧めしています。

当健診センターでは、報告書を受診後原則 2 週間以内に郵送しています。ただし、重大な疾患が見つかった場合や早期治療が必要な場合あるいはそれらが疑われる場合は、診察の時に説明をしたり、後日当方から電話を入れる事もあります。

【おわりに】

団塊の世代がこれから後期高齢者となっていく時機を迎え、少子高齢化で急速に高齢者人口が増えつつあります。平成 22 年の都道府県順位では長崎県は、平均寿命で男性が 43 位、女性が 25 位、健康寿命で男性が 45 位、女性が 39 位と下位に位置しています。

健康診断、人間ドックを受診してもらい、受診者の健康増進に寄与するよう今後も健診センターの業務に励みたいと思っています。

2日ドックの昼食

2日ドック受診者には、昼食に特別メニューを用意しています。検査のため事前に食事を抜いての受診となった中での息抜きができるのが昼食です。一見品数が多く、カロリーも高そうに見えるもののカロリー計算を行い一定程度におさまっている昼食で塩分についても控えめのもので、特に高血圧の方には塩分制限の参考にして下さい。



佐世保共済病院ではがんに関する最新情報を市民の方々に提供すべくシリーズで市民公開講座を開催していますが、今回はその2回目として「超高齢化社会における終末期医療の在り方を問う」と題した講演会を11/26(土)に開催致しました。超高齢化社会に向けた医療政策の策定が急務となっており、佐世保・県北医療圏では過剰となっている急性期病床の削減ならびに回復期病床の増床が求められています。こういった医療情勢の中では在宅医療の役割がますます重要となりますので、本講演会では基調講演としてこの領域のフロントランナーであられる矢津内科消化器科クリニックの矢津 剛先生より「我が家に帰りたい、帰りたいを実現するために：末期がん患者の在宅ホスピス緩和ケアについて」と題した講演を賜りました。また、話題提供として長崎ウエスレヤン大学准教授の樋口由紀子先生より終末期患者への寄り添い方について国立がん研究センター中央病院での経験談を語っていただくとともに、地元の在宅医療に関わっておられる医師、看護師、がんサバイバー及び行政の方よりそれぞれの立場から県北医療圏における在宅医療の在り方(将来像)について語っていただきました。本講演会には105名の市民の方にご参加いただきましたが、活発な討論が展開され、この領域への関心の高さが窺えた次第です。



医療を支える人々 ～放射線検査科～ 技師長 菊田 明

放射線検査科は技師10人、助手5人で構成されています。診療に関する画像を提供することを主な業務としています。取り扱う医療機器と検査の種類としては一般X線撮影装置、X線透視装置、X線回診装置、乳房撮影装置、歯科用パノラマ撮影装置、骨密度計測装置、CT、MRI、血管造影装置、シンチカメラがあります。どの装置も近年デジタル化が進みました。フィルムが無くなったのはずっと以前でしたが、最近ではコンピュータと無線通信がより発達し、大量の画像データのやりとりが高速に行われるようになりました。例えば昔、手術室で撮影した画像は1回レントゲン室に持ち帰り、フィルムを現像してそれをまた手術室まで運び、医師に確認してもらうという手間と時間がかかっていました。それが今では撮影した写真は瞬時にその場で観察できる時代になりました。またワーク



CTCの画像

ステーションという画像処理支援システムとMDCT(検出器と呼ばれる画像データを受ける部品が多数列配置されているCT:短時間で大量の緻密なデータを収集できる)のおかげでCTでは心臓の冠状動脈の3Dや他方向からの観察が可能になったり、まるで大腸ファイバーを見るようなCTC(仮想大腸内視鏡)の検査もできるようになりました。

放射線検査科では患者さん、検診の受診者に対し技師も助手もスタッフ一同で『明るく、親身で』をモットーに接しております。どうぞ皆さん、分からないことや困ったことがあったらお気軽に声を掛けて下さい。

徳永内科小児科

〒857-0874 佐世保市京坪町4-1 TEL 0956-22-2512

院長 徳永 正樹 先生



京坪町エレナの前で開業しております、徳永と申します。私は昭和50年名古屋市立大学薬学部を卒業し、持田製薬(株)王子工場研究所へ入社しましたが、思うところが有り約2年で退社いたしました。その後、一念発起し昭和55年山口大学医学部へ入学し、昭和61年長崎大学第二内科に入局しました。長崎大学病院、佐世保市立総合病院（現・佐世保総合医療センター）、健康保健諫早総合病院（現・独立行政法人地域医療機能推進機構 諫早総合病院）、高知県立西南病院（現在廃院）、恵美須町病

院、県立島原温泉病院（現・長崎県島原病院）に勤務し、平成7年7月1日に旧吉田小児科で、内科、消化器科を開業しました。しかし、開業してみると、毎日閑古鳥が鳴き開店休業の毎日でした。

石の上にも3年と言いますが、軌道にのるまで10年かかりました。専門は消化器ですが、受診される患者さんはほとんど生活習慣病の方でした。

この現実を直視し、一から勉強しなおそうと思い、努めて講演会に出席しております。

今日あるのは、病診及び診診連携でお世話になった先生方のお陰と感謝しております。当院は地理的に共済病院へ近いこともあり、いつもご指導いただき心より感謝致しております。来年1月で65才となり高齢者の仲間入りとなります。勉強に対するモチベーションが維持できる限り、頑張っていきたいと思っております。

今後ともよろしくお願ひ致します。



徳永院長とスタッフの皆さん

年末年始の管理当直体制

	12/29 (木)	12/30 (金)	12/31 (土)	1/1 (日)	1/2 (月)	1/3 (火)
日直 8:30～17:30	外科	眼科	耳鼻咽喉科	外科	泌尿器科	二次輪番日 内科 外科
当直 17:30～翌8:30	整形外科	内科	放射線科	整形外科	整形外科	

編集後記

今年も瞬間に過ぎ、残りわずかになりました。みなさんはどのような1年でしたか？ 来年はあまり見ることのない風景に刺激を得て、より良いきょうさいだよりを作っていきたいと思ひます。

編集委員 谷口 友佳子



佐世保共済病院 外来診療担当表

平成 28 年 12 月 1 日現在

科	役職	医師名	月		火		水		木		金		備考（専門分野・特徴など）
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
腎臓内科	部長	福成 健一	●						●				腎臓疾患・人工腎臓
	医長	金谷 晶子			●		●						腎臓疾患
	医員	内海 沙織					●				●		腎臓疾患
	〃	池田 裕貴	●						●				腎臓疾患
循環器内科	部長	金谷 誠司					●		●				循環器疾患
	医員	片伯部幸子	●						●				循環器疾患
	非常勤医	田淵くみ子									●		循環器疾患
	〃	横山 晋二					●						循環器疾患
	〃	溝口ミノリ				●							循環器疾患
	〃	原口 剛									●		循環器疾患
	〃	高橋 甚彌	●	●									循環器疾患
呼吸器内科	非常勤医	柴原 大典									●		呼吸器疾患
	〃	榎津 愛実					●						呼吸器疾患
糖尿病内科	非常勤医	牟田 芳美					▲	▲					▲は第2・4週のみ診察を行います
消化器内科	院長	井口 東郎					●		■				膵がん・胆道がん ■は紹介患者のみの受付になります
	部長	河野 健次			●		●						肝臓疾患
	内視鏡センター長	宿輪 三郎	●								●		消化器内科疾患
	部長	丸山 祐二	●						●				消化器内科疾患・消化器がん
消化器センター					●					●			(診療内容) 上部・下部消化管、肝・胆・膵疾患の検査及び治療
外科	副院長	井原 司			●				●		●		消化器外科・肝胆膵臓外科・内視鏡下外科・一般外科
	部長	原田 洋			●						●		消化器外科・乳腺外科・一般外科
	〃	富崎 真一	●				●						消化器外科・内視鏡下外科・一般外科
	〃	丸山祐一郎	●						●				消化器外科・肝胆膵臓外科・一般外科
	医員	高木 克明			●						●		消化器外科・肝胆膵臓外科・一般外科
	〃	福田 勇人	●	●							●		血管外科・一般外科
	〃	野口 亮志					●		●				一般外科
	非常勤医	川畑 方博					●						肝胆膵臓外科・消化器外科・一般外科
	〃	武田 雄二								▲			呼吸器外科 (▲は第1週のみ診察を行います)
乳腺外来			●		●		●		●		●		※乳癌検診は、10時までに受付を行って下さい (要予約)
小児科	副院長	岡 尚記			●				●				小児アレルギー疾患、気管支喘息、小児一般
	部長	上玉利 彰	●				●				●		小児血液、小児痛、小児一般
	アレルギーセンター長	合田 裕治	●	●			●		●		●		小児アレルギー疾患、食物アレルギー、小児一般、気管支喘息
	アレルギーセンター副	濱崎 雄平							▲	▲			小児アレルギー疾患 (▲は第3週のみ診察を行います)
	乳児健診					●							火曜 午後1時から診察開始 午後2時までに受付を行って下さい
	慢性外来						●						水曜 午後2時から診察開始
脳神経外科	部長	山川 勇造		■						■	■		脳神経外科一般
	医長	尾藤 昭次	●		●		●		●		●		■は午後1時30分から診療開始 午後4時までに受付を行って下さい
整形外科	顧問	萩原 博嗣	●								●		膝・股関節疾患、人工関節置換術、骨折、スポーツ障害、小児整形外科
	部長	水城 安尋			●		●				●		上肢の外科(肩肘手)、足部外科、スポーツ障害
	医員	佐々木 大	●				●		●				膝股関節疾患、スポーツ障害、骨軟部腫瘍
	〃	内村 大輝			●				●		●		上肢の外科(肩肘手)、スポーツ障害
	〃	上田 幸輝	●				●				●		膝・股関節疾患
	〃	富田 哲也			●		●		●				整形外科一般
	〃	大迫 浩平	●						●		●		整形外科一般
泌尿器科	診療部長	江口 二朗	※		●				●		●		尿路結石、尿路生殖器腫瘍、排尿障害、尿路感染、男性不妊(江口)
	部長	中村 貴生	※		●			●					※の第2・4週(江口)第1・3・5週(中村)が診察を行います
	医員	湯野 努	●				●				●		
産婦人科	部長	鶴地 伸宏	●		■		●		●				産科・周産期医療、不妊症・内分泌疾患
	〃	木下秀一郎			●				■		●		腹腔鏡下手術、更年期・婦人科疾患
	〃	松隈 敬太							●				●：婦人科診療日 ■：産科診療日
	医員	末永 壮賢	●		●				※		■		※の第2・4週(末永)第1・3・5週(柿添)が診察を行います
眼科	〃	柿添 絵里	●■						※		●		
	医長	原 潤	●			※	●	※	●		●	※	白内障手術、緑内障手術、硝子体手術、翼状片手術、レーザー光凝固術
			※：火・水・金曜の午後は術前検査と特殊再来(要連絡)										
耳鼻咽喉科	部長	田浦 政彦	●		●		●		●		●		頭頸部腫瘍、嚥下障害、耳・鼻・咽喉頭などの手術
	医員	小池 健輔	●		●		●		●		●		
放射線科	部長	野々下政昭	※検査・画像診断についてのお申し込み・お問合せは、外来までお電話下さい。										
	医員	梶原 寿浩											
麻酔科	〃	椿 史裕											
	部長	深野 拓	●		●							●	月～金午前ペイン・緩和ケア外来
	医長	木本 文子			●				●				月～金午後は手術麻酔
	医員	豊田 智美											
病理診断科	非常勤医	別府 幸岐											
	顧問	井関 充及											
歯科口腔外科	顧問	井関 充及											
	部長	窪田 泰孝	●	※	●	※	●		●	※	●	※	歯科口腔外科、インプラント、顎顔面外傷、顎関節症、口腔腫瘍
	医員	藤永 貴大	●	※	●	※	●		●	※	●	※	菌性感染症など(※は予約患者のみの診察になります)
健診センター	研修医	濱田 雄太	●	※	●	※	●		●	※	●	※	
	部長	佐藤 浩信											
医長	原 敬一	※お申し込み・お問い合わせは、健診センターまでお電話下さい。健診センター直通電話 0956-22-6155											